

【現状チェック】「有益」なのにスルーされる壁を認識する

「保存」で止まる、静かな発信

構成は整っている。内容は正しい。なのに、会話が起きない。

反応停止の現在地

- 有益な内容はあるが、保存されるだけで行動に繋がらない
- 無難な着地になってしまい、読者との会話が発生しない
- 構成は整っているはずなのに、反応ゼロの状態が続く
- 「正しい情報」として理解はされるが、心に触れられない

— 状態：情報過多・感情未接続 —

「情報」が、 先に出すぎていないか。

- 理解される前に流されてしまう「情報の壁」
- 読者の悩みが後回しになり、自分事化できていない
- 書き手の感情が見えないため、提案だけが浮いている

理由の核心

感情が届く「順番」が逆転している

文章力の問題ではなく、読者との「接点」の作り方の問題です。

「正しさ」がブレーキになる瞬間

「説得」は、 反発を生む。

× やりがちな失敗

情報をひたすら羅列する
言いたいことが多すぎて軸がブレる
「正しさ」だけで押し通す

× 届かない構造

読者の「今」を拾っていない
一方的な主張だけで進む
説得調で閉じられてしまう

「正しい」からといって「欲しい」とは限りません

情報の前に「共感」という入り口を作る必要があります。

共感 → 感情 → 視点の順で固定

【共感】 相手の現状と悩みを先に言語化する



【感情】 書き手の本音と温度を見せる



【視点】 最後に気づきや提案を置く

この順番を守るだけで、投稿は「プレゼント」に変わります。

「自分の話」として届き出す

有益な情報の保存 → 有益さに「温度」が乗り、記憶される

一方的な説教感 → 共感から始まる「対話」へ

表面的なりアクション → DMや深いコメントの発生

一過性の発信 → 投稿の再現性が劇的に上がる

「構成」よりも「順番」を直す

1. 直近の投稿を一つ選び、冒頭を「読者の悩み」に書き換える
2. その次に、あなたの「本音」を一文だけ差し込む
3. 伝えたい結論は、最後に「提案」として一つに絞る
4. 余計な情報は後ろに回すか、思い切って削る
5. 5分で修正を終え、そのまま投稿する

「構造」で迷いを解決する

点検項目

- ✓ 書く前に「感情の順番」を確認したか？
- ✓ 情報が先走り、読者を置き去りにしていないか？
- ✓ 「正しさ」で相手を説得しようとしていないか？

得られる効果

感覚ではなく構造による修正
感情不足の即時検知
無反応投稿の有効なリフォーム
再現性の高い「共鳴」の獲得

立ち止まるたびにここに戻り、順番を再セットしてください。

順番を変えるだけで、言葉は生き返る

「構造」を、使いこなす。

直近の無反応投稿を、順番だけ変えて書き直す
三日間、この「型」で反応の差を観察する

迷ったら再点検。構造が合えば、一歩は軽い。